

安倍内閣 ロケットスタートの秘密

経済再生担当大臣

甘利 明

Amari Akira



民主党政権は、
官僚機構と
対峙することばかり
考えていた

2012年12月16日の総選挙が終わるや否や、安倍総裁から直接、私に電話がありました。

「経済財政諮問会議を復活させる。経済再生本部も立ち上げる」というのですね。両方とも総裁選や総選挙の時から公約でした。安倍総裁は、小泉内閣の官房副長官、官房長官、第一次安倍内閣のときから、経済財政諮問会議の果たす重要な役割、経済財政運営の司令塔として役に立ったということをよく理解されていたわけです。

私が自民党の政調会長のときにも安倍総裁から、「経済財政諮問会議、経済再生本部という二つの司令塔の役割など設計しておいてくれ」という命を受けていました。「あなたが政調会長だから設計しておけよ、というのじゃなくて、あなたが司令塔の一人になるんだから今から設計しておけよ」という命令に近いものでした。

2013ダボス会議で日本の経済財政戦略の根幹について語った

月刊「ニューメディア」は1983年創刊以来、地域情報化政策面で大臣、知事、首長などの政治家が誌面に登場することがある。最近では少なくなったが、かつては平松大分県知事、梶原岐阜県知事、橋本高知県知事、北川三重県知事などが何回も登場している。旧郵政省、旧通産省などの大臣はICT政策で登場していた。今号から登場する甘利明大臣は、労働大臣、経済産業大臣のときに登場している。本誌が雇用の創出、地域産業の活性化を主要なテーマにしてきたからである。2004年には対談シリーズをまとめた『われら知財派』を単行本として上梓した。今回、再び国政の要の位置にいる甘利明大臣をホストに連載対談シリーズ「われら成長派」を開始する。1回目は対談というより、安倍内閣誕生以前から、経済成長戦略の司令塔として活躍している大臣に天野昭がインタビューする形でまとめてみた。質問は1問のみ。「安倍内閣ロケットスタートの秘密はなんですか」。次回からは、日本経済成長の牽引役との対談予定。ご愛読あれ！（文責：天野昭）



2013年1月23日、「Vision2020」で講演する甘利明大臣
(写真：須藤正徳)

外向きには政調会長としてということですが、そのときから中から指揮をとれと言われていたわけですね。その命令はよかったと思います。早くから取り組めたからです。

私は考えました。「どうして民主党政権時代には同じ組織が機能しなかったのか」ということです。それには理由があるんですね。日本最大のシンクタンクである官僚機構を動かす術を彼らは知らなかったからです。彼らは官僚機構というのは、対峙するものだという姿勢ですね。与党は官僚機構を動かして使命を果たしていくものです。与党になって「あれは敵だ」というのでは与党になる意味がありません。官僚機構は国民の税金を払って成り立っているわけで、それを使わないなら、なぜ彼らを雇っているんですか、ということになります。この認識が違うことが大きなポイントです。

それに民主党政権中枢の民間のお友達を官邸に大勢引き入れて、通常の3倍の通行証を発行してたんです。官邸というのは国家機密のカタマリですよ。そんなに民間人が入ってきて官僚機構を上から動かそうとしても動きませんよ。

私が考えたことは、諮問会議と再生本

部の二つの戦略的組織、機能をどう位置づけるか、その事務体制を人選も含めてどうするかということですね。

あつという間に 60名もの 優秀な官僚が 集結した

経済財政諮問会議には民間議員は4人しかいないわけです。それに総理、副総理（財務大臣）、私、官房長官、経産大臣、総務大臣、日銀総裁などで構成されています。諮問会議が基本設計をし、再生本部が実施設計を行います。事務体制は両方別々に作ると両方バラバラの方向にいつてしまつて大変なことになります。事務体制は総理の直属ラインで一元化しました。

このような設計図は私が大臣になる前に描いたことです。その推進の要は、財務省・経産省・内閣府としました。そこを中心に事務体制を作りましたが、「この経済再生の司令塔に今から足を突っ込んでおこなきゃおいてきぼりになる」というので優秀な官僚があつという間に集まり

ました。肝心なのは官僚のモチベーションをどう上げるかです。

集まった60人もの優秀な官僚に対して「日本の未来は君たちの双肩にかかっています。もしこれが失敗したら、自民党が終わるなんていうのはどうでもいいんです、日本が終わる。日本のために忠誠を尽くしてほしい」と訓示しました。

経済財政諮問会議もスタートしました。閣僚で構成されている日本経済再生本部もスタートしました。その下に民間委員10人を含む産業競争力会議がスタートしました。この最初の会議には2人だけダボス会議に参加しているのに欠席しましたが、「どうしても参加したい、どうしても発言したい」というのでテレビ会議システムで急遽現地から発言されました。

非常にモチベーションが高い。もしロケットスタートができた秘密というなら、当たり前のことを準備して、当たり前の組織を作り、勢いよく実務にそれぞれが励んでいるからでしょう。

日本経済の再生に向けた司令塔は立ち上がりました。問題はこれからです。引き続き設計図に基づいて淡々と役目を果たしていきます。

